

文部科学大臣表彰受賞決定

～平成28年度子どもの読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）～

子どもが積極的に読書を行い、意欲を高めるような特色ある優れた読書活動を行っている学校・図書館・団体（個人）に対し、その実績をたたえるため、この度、標記表彰が行われます。

この表彰は、平成13年12月施行の「子どもの読書活動の推進に関する法律」を受け、平成14年度から文部科学省が実施しているものです。

平成28年度に受賞した本県関係の学校・図書館・団体（個人）は、下記のとおりです。

記

1 受賞した学校・図書館・団体（個人）

(1) 学校

- | | |
|-----------------------------|------------|
| ① 美里町立砥用 ^{ともち} 小学校 | (児童数 167人) |
| ② 熊本県立宇土中学校 | (生徒数 239人) |
| ③ 熊本県立熊本聾学校 | (生徒数 74人) |

(2) 図書館

- ① 長洲町立長洲町図書館

(3) 優秀実践団体（個人）

- ① やまえおはなしグループ「おひさま」

- ・詳細は別添資料を御参照ください。
- ・別添資料の役職名等は、平成27年度時のものです。

2 表彰式

- (1) 期 日：平成28年4月23日（土曜日）

子ども読書の日記念“子どもの読書活動推進フォーラム”にて

- (2) 場 所：独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター

- (3) 時 間：午後1時から午後4時40分（予定）

問い合わせ先

熊本県教育庁教育総務局 社会教育課

家庭教育支援班 担当 大塚、田原

(内線 6696)

TEL：096-333-2698

受賞した学校・図書館・団体の取組内容について

(1) 学校

- ① 美里町立^{ともち}砥用小学校（児童数：167人 校長 野尻 絹子 司書 光井 美樹）

【取組内容】

学校教育計画に「図書室年間活用計画」を位置付け読書活動を推進している。図書室の運営基本方針を掲げ、読書教育のねらいを定めた活動を行っている。運営は図書主任と学校司書が中心で行い、全教職員が協働しながら活用を図っている。

取組の<学習部門>では、全学年の教科年間指導計画に対応した「学習関連図書一覧」を作成し、関連図書を把握して教師が授業展開を行っている。

<読書部門>では、ブックトークやアニメーションを使った読書機会の提供に努めている。

<連携部門>では、公共図書館との交流、PTAと協力し行う家族ふれあい読書など学校・家庭・地域が一体となった取組を実施。これらの実践の結果、平成21年度の1人当たりの貸出数は44冊だったが平成26年度には1人当たり貸出数は128冊と大幅に増加した。現在も図書室利用を促すため学校行事に沿った取組を進めるとともに、多様な教育活動に対応できるよう蔵書構成の充実を図っている。



館内はログハウス風の建物



テーマ本紹介コーナー

② 熊本県立宇土中学校（生徒数：239人 校長 竹下 文則）

【取組内容】

学校司書と図書部の職員が連携して、学校教育における学校図書館の活用に積極的に取り組んでいる。国語の授業や総合的な学習の時間の調べ学習において学校図書館が頻繁に活用されているほか、毎日の「朝の読書」活動に伴い、休み時間や放課後に本を借りに来る生徒も多い。

また、4月の子ども読書週間及び年2回（7、10月）の読書月間には、ALT（英語、外国語の授業で日本人教師を補助する役）や図書部の職員が「朝の読み聞かせ」活動を行うことで、生徒たちの豊かな心、集中力、想像力の育成を図るとともに、さまざまな種類の本への興味や関心を高めている。

生徒図書委員会の活動も活発で、おすすめの本を紹介する「らいぶらりいたいむす」の発行や中学生コーナーの設置、文化祭での発表等を行い、積極的な読書活動を推進している。これらの取組により、1日の利用者は、平均100名を超え、平成26年度の生徒一人当たりの貸出冊数は31.4冊となり、大幅な伸びであった。

この他にも、宇土市立図書館での乳幼児対象の「読み聞かせボランティア」活動や、小学生への読み聞かせ、中高合同「ビブリオバトル」の開催など、課外活動にも意欲的に取り組んでいる。



ALTによる英語の読み聞かせ



中学生による小学生への読み聞かせ

③ 熊本県立熊本聾学校（児童・生徒数74人 校長 中島 徹）

学校司書と各学部（小学部、中学部、高等部）の職員が連携し、学校図書館の活用や本に親しむ活動に積極的に取り組んでいる。特に、図書館において聴覚障がいのある本校の子ども達が読みたい本を探ることができるような本の展示や季節に応じたディスプレイをする等、図書への興味を喚起する工夫を行っている。

幼稚部では、月に2～3回ほど聴覚障がい者の手話による絵本の読み聞かせを行ったり、再現遊び（劇）をしたりして絵本の世界を楽しむ取組を行っている。

小学部では、「読書月間」を設けたり、高学年の児童が下学年の児童に手話を交えて「読み聞かせ」を行ったりしている。

中学部では、週1回始業前の15分間を使って読書活動を行っており、時間内で読み終える程度の本を50冊ほど読書会場に展示している。

高等部では、毎週木曜日を「朝読書の日」とし、本に親しむ活動に取り組んでいる。

また、学校図書委員会では、友達に勧めたい本を1冊決めてポスターを制作し紹介する活動を行うなど、積極的に読書活動を推進している。

さらに、地域の方々に図書館を開放したり、ホームページに図書リストを掲載している。聴覚障がいに関する本を積極的に収集しており、専用のコーナーを設けて「聴覚障がい教育」の理解や充実を図っている。



季節のレイアウト



手話サークルの読み聞かせ

(2) 図書館

① 長洲町立長洲町図書館（館長 山隈 司 職員数5人）

子どもたちの読書に対する意識向上を目指し、乳幼児期の段階からその親への啓発活動に対して手厚い取組がなされている。

具体的な取組内容として、図書司書が選定した「絵本パック（3冊）」や「大人用パック」の貸出を通して、様々なジャンルの本に親しむきっかけづくりとしている。また、気兼ねなく親子で読書を楽しむ「赤ちゃんタイム」を平成25年6月から開始し、来館者も増えてきている。

さらに、来館への意欲付けとしてポイントカード制度やスタンプラリーなどにも取り組んでおり、中長期的な展望をもった運営が行われている。

これらの取組みにより平成25年度から26年度にかけての貸出冊数が1.6倍となっている。



すくすく絵本パック



読書スタンプカード

(3) 団体

① やまえおはなしグループ「おひさま」(代表 坂田 妃美^{ひみ} 会員数23人)

平成15年に熊本県民文化祭の協賛行事として人吉市で開かれた「くまもとお話の交流会」をきっかけに誕生し、それぞれ別団体から参加していた山江村の女性3人が立ち上げた。

『ボランティアとして誰でも気軽に活動ができるグループ』を基本理念として掲げており、そのことが読み聞かせへの関心や読書への理解を広げ、会員を着実に増やし、村内での読書推進活動に欠かせない存在へとつながっている。

また、小中学校への読み聞かせを定期的に行っており、時代を担う子どもたちに本を読むことのすばらしさを伝えるという観点からも大変重要な役目を果たしている。

その他にも、山江村の人物を紙芝居として伝えていくことで、語り部的要素を含め、伝承事業にも貢献している。また、山江村歴史民俗資料館図書室「やまええほんの森」でお話会を実施し、大型紙芝居による読み聞かせを行ったり、イベントにくまモンを要請してお話会を盛り上げたりする等の工夫も行っている。



大型紙芝居による読み聞かせ



えほんの森でのイベント